

那須大学都市経済学部の設置計画



須賀学園長・初代学長
須賀 淳

「一人は一校を代表する」という思いを胸に

21世紀を前に学園として将来どうあるべきか、いろいろ検討した結果、社会の変化に対応できる個性や創造力のある人材を高等教育機関にて育成することが、日本が活力ある社会を維持し、世界の平和と繁栄のために役割を果たしていくうえで不可欠と考えました。

当時、栃木県内の高校生は首都圏に近いこともあって、県内の大学に進学する割合が全国平均に比べ大変低く、県北には人文科学系の大学がありませんでした。1992年には国会等移転の法律が成立し、国の審議会により「栃木・福島」がその候補地になりました。これを受けて、県、地方公共団体、経済団体から学園に県北地域での大学設置の要望が寄せられました。

こうした経緯から、旧黒磯市（現那須塩原市）に日本初の都市経済学部を有する大学を開学したのです。

都市経済学という新しい学問分野にしたのは、私たちが生活している都市にはグローバル化や少子高齢の社会を迎えていろいろな課題が生じており、クオリティ・オブ・ライフが、必ずしも満足いく状態ではないことでした。これまでは経済成長一本槍で、とても市民の身の周りを考える余裕がなかったからです。これらの課題を直視して、とくにその社会経済的側面について総合的な教育研究を行うための学問が都市経済学、現在のシティライフ学です。

また公私一体となった大学の体制は、これからの時代と社会に即応した新しい取り組みであると全国的に注目されるようになりました。

須賀栄子先生が学園を創設してから99年目に大学を誕生させることができたのは、何といても「全人教育」という教育理念にあります。つねにこれを基準に、時代の変遷がいかにあろうとも、社会がどのように動こうとも、教育はいかにあるべきかを考えてきた伝統の力だと確信しています。

この教育理念を学園生活全般にわたって示したものが、「一人は一校を代表する」という生活目標です。学生生徒や卒業生たちが胸に抱く「一人は一校を代表する」という思いが、学園のこれまでの発展を支えてくれました。一人ひとりが学園にとってかけがえのない宝です。そして各人が輝かしい人生を送ることが、身命を賭して教育に取り組んできた私の、何物にも代えがたい喜びです。

学生生徒一人ひとりの個性、能力、特質に対応して教育をいかに行うか、持っている力をどのように伸ばすかを思い、「全人教育」という言葉に集約される栄子先生が学園創設にすべてをささげた魂を、これからも大切にしていきたいと考えています。

